

1 グループ

私達のグループは、「人になれ奉仕せよ」というテーマを「人になれ」と「奉仕せよ」に分けて考えました。まず、「人になれ」の意味について発表します。

私達のグループは、「人になれ」とはどういうことなのかを考える為に、まず「人」とは何かについて話し合いました。私達の考えた「人」とは、一人では生きていけず、家族や社会的集団の中で生活・成長していくといった、他者との関わりが重要である存在、また、育った環境、現在おかれている環境によって、一人一人価値観や考え方がそれぞれ違っており、それは日々の生活や周囲の人々との関わりの中で、常に変化し続ける存在です。そこから、「人になる」ということはどういうことなのか、を深く考えてみました。「人」が、他者との関わりの中で存在するのであれば、「人になる」には、他者との関係性をどのように築くかが重要ではないかと考えました。しかし、他者に関心を向けるには自分に余裕がないと出来ません。そこで、「人になる」ためには、まず第一に、自分とは何かという自己理解が必要であると考えました。なぜなら、自分を理解すること、例えば自分の考え方や性格、長所・短所を知っておくことで、他者と関わる際に自分がどうあるべきなのかを考えることができ、また、自分を見直すことでより良い自分を創造できると考えました。自己を見つめ直し、自分に自信を持つことが出来れば、そこで初めて、他者への関心を向けることが出来ると思ったからです。

これらのことから、「人になる」とは、自己理解・自信の獲得・成長の3つを繰り返すことであると考えます。人は様々な経験や他者との関わりの中で常に変化していきます。それに伴って、自己理解も絶えることなく続けていかなければいけません。成長するごとに問題を解決していくことで自信につながり、それがさらなる成長へと繋がると共に、また新たな課題との出会いになります。このことから、「人になれ」とは、自己理解・自信の獲得・成長のサイクルであり、それは発達段階によって変化していく為、「人になれ」という課題は、生きている限り続いていくのではないかと考えました。

次に、「奉仕せよ」の意味について発表します。

私たちは最初に“奉仕”の言葉にどのようなイメージを持っているかを各グループで話し合いました。“奉仕”とは上下関係のもとで、人に仕えること、尽くす事、また、見返りを求めずに行うサービス、無償の愛というイメージを持つ人が多いということが分かりました。しかし、看護師と患者の関係に上と下があるのか、果たして一方的にケアをしているだけなのかも疑問を持ちました。私たちはまだ3回という短い回数ではありますが、実習の中で患者と接することで多くの成長や学びを得ることができたと思います。

例えば、私たちは実習を通して多くの患者さんの“思い”に遭遇しました。同

1 グループ

じ疾患であっても、一人一人に現れる症状や置かれている生活背景、疾患に対する思いは同じではありませんでした。私たちは患者さんの思いや苦痛の全てを理解することはできません。しかし、少しでも患者さんの思いに近づけるように考え、振り返ることができます。患者さんの言葉だけではなく、表情や視線、口調。また声をかける内容やタイミングなど、なぜ患者さんはあのような発言をしたのか、細かい部分まで振り返り、患者の思いについて考える機会が多く存在しました。そういった、相手のことを知ろうとする姿勢は相手にも伝わり、お互いの気持ちを共有することでよりよい信頼関係を築きあげていくのだと実習を通して学ぶことができました。それは、私たちを看護学生として成長させてくれるだけでなく、人として成長させてくれているものでもありました。

このように看護師と患者の関係は一方通行ではなく、座学だけでは学ぶことができない実践により私達自身を人として成長できるきっかけを与えてくれ、患者さんから「ありがとう」という感謝の気持ちを受け取ることもできます。また、看護師と患者の関係は無償のサービスではなく、実際にはお金をもらい仕事をしているため、本来の“奉仕”とは違っていることに気づきました。

では、私たちにとっての“奉仕”とは何でしょうか。それは、患者さん一人一人のニーズと、人間の尊厳を重視した看護を提供するという過程だと思えます。そして機械ではできない、気持ちや空間を共有し寄り添うということ、お互いに信頼しあえる関係をつくること、それらすべてが奉仕なのだと思えました。

これまで人と奉仕について話してきましたが、最後にこれらの学びを私たちの今後の看護の学びや実習にどのように活かしていくか、その姿勢と態度について発表します。

冒頭にも話した通り、私たちにとってはまず、自分を知ること、そして自分自身の成長と看護学生としての成長と、それに対する自信がもてる必要があります。そのため、自分自身の成長への自信を持つためには、自分の足りていること、足りていないことを自己分析し、他者からの助言を受け止め、客観的に自分を見つめる姿勢を忘れないようにしたいと思います。看護学生としての自信とは、患者の個別性やニーズに合わせて、看護計画をたて、援助を行うことができることです。

その自信をつけるためには、知識と自己理解が必要であり、予習で理解できなかったところを授業や先生に質問することで理解を深め、自己学習で自分の知識にします。そして知識にすることで終わらずに、看護技術の練習を繰り返

1 グループ

し友人とともにいき、アドバイスを積極的に受け入れることで技術の面でも自信をつけることが出来ると思います。

人は様々な経験や他者との関わりの中で常に変化していきます。それに伴って、自己理解も絶えることなく続けていかなければなりません。成長するごとに問題を解決していくことで自信につながり、それがさらなる成長へと繋がると共に、また新たな課題との出会いになります。このことは看護の場面でも言えることだと思います。このことから、「人になれ」とは、自己理解・自信の獲得・成長のサイクルであり、それは発達段階によって変化していく為、「人になれ」という課題は、生きている限り続いていくのではないかと考えました。

これから約半年の初めての実習が始まることに対し、期待もありますが、正直今は不安のほうが大きいです。実習中たくさんの悩みが生じ、壁にぶつかることがあると思います。その時に3年間一緒に学習し、共に過ごした仲間も支え合い、他者からの助言を真摯に受け止め患者さんのニーズを充足できるような私たちなりの看護を一生懸命考えていきたいと思っています。そして、思いやりの気持ちを持ち、患者さんと関わっていききたいと思っています。

これで私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。